

## 最終氷期最盛期から後氷期の日本周辺海域の海洋レザバーの時間変動の復元

## Reconstruction of last glacial maximum-last deglaciation local marine reservoir values around the Japanese islands

# 池原 研 [1]

# Ken Ikehara[1]

[1] 産総研・地質情報

[1] IGG, AIST

海洋レザバー値は海洋試料の放射性炭素年代を暦年に較正するために必須の情報である。現在の北西太平洋では古い炭素を持つ深層水の湧昇の影響を受け、低緯度の黒潮域では小さな、高緯度の親潮域では大きな値を持つ。しかし、これらの時空間変動の詳細は明らかにされていない。同時堆積物である火山灰層の陸上と海域の年代の比較から、後氷期初期の東海沖のローカルレザバーは 600-700 年と推定された。これは同様な手法で後氷期の三陸沖について推定された 860 年に近い。これはおそらく大きなローカルレザバー値を持った北西太平洋の亜寒帯表層水が東海沖まで南下していたことに起因する。